

地域を知ろう(7)

～堀ノ内二丁目地藏堂由来記

堀ノ内二丁目八番地堀ノ内保育園の一角に庚申塔と地藏尊が祀られてています。

昔の所在地名は東京府豊多摩郡和田堀内村
大字堀ノ内といわれていました。

青面金剛像宝塔の方は元禄十三年(一七〇〇年)駒型の方が、享保元年(一七一六年)の一基と地藏尊安永二年(一七七三年)あとの三体は年号不詳。

観音様は元禄十三年(一七〇〇年)と馬頭観音一体で全部で八基があります。

昭和四十六年、このあたり一面くぬぎ林でその一角に祀られていたが、堀ノ内保育園が創設されるために、北側に移転された。移転するにあたって瓦ぶきの立派なお堂に建てかえられました。

大正五年頃から近辺の農家人々によって毎年七月二十四日

一番後(春蒔いた陸稲(おかば)、いも野菜が実り一段落した時のこと)に豊作を感謝しておまつりをしたのが、現在も続いています。近隣の人達のの信仰厚く講員も二百五十名位いるということでした。お祭りには、講員の方々の浄財で、妙法寺の僧侶にお経をあげていただき、近所の子どもや保育園の子ども達にお菓子をくばって供養が続けられています。

毎日のお堂の掃除を引き受けているのが、地元の渡辺カマさんで、おさいせんごの管理、線香、お花の世話をしてくださっています。

